



夏に向けて準備を進めています

子どものころ待ち遠しかった夏休みです。お楽しみは、海にプールや川遊び、花火にスイカ……といったところでしたが、今のお子さんにはもっとたくさんのお楽しみがあることと思います。今から梅雨が明けて、スカッとした青い空と白い雲が待たれます。

リニューアル後の郷土資料館では、毎年夏にイベントをご用意しています。

ひとつは第二展示室で行う企画展です。令和5年度は「くらしの灯り展」で、館にある行燈（あんどん）や燭台（しょくだい＝ろうそく立て）、石油ランプなど電気のなかったころの昔の生活を感じていただきました。令和6年度は「買弁の近代化を進めてくれた企業さん 展」として、昭和の初期に始まった小野田セメント藤原工場と三岐鉄道の歴史について見ていただきました。そして今年度は、東海環状自動車道が阿下喜の「いなべインター」まで開通したのを記念して、新しい道路を建設するために行われた発掘調査によって発見された昔の人々の生活についてご紹介します。平成6年度（1994年）から埋蔵文化財調査が始まり、市内の発掘調査が昨年度に完了しました。高速道路の広い道路幅で南から北上するように進められた調査の結果は、新しい発見や今までの想定を明確にする発見が数々あります。県埋蔵文化財センターのご協力のもと、出土遺物や資料写真、図版、などを展示します。

ふたつめは体験教室です。郷土資料館が新しくなってから、夏の定番として「絞り染め」による手ぬぐいづくりを2年行いました。たくさんのご応募をいただき、昔の手仕事を感じていただきました。絞りの技法は本格的でしたが染め液は藍葉ではありませんでした。合わせて花壇で藍を種から育ててきましたが、緑色の葉っぱの緑の汁によって白い布が真っ青に染まるについては試行錯誤の連続でした。しかし、今年の夏は今までのチャレンジが大成功につながりそうです。（決め手の多くはご参加いただける方々のご熱意かもしれません）

郷土資料館の3人のスタッフ、そしてボランティアの皆さんで準備作業を進めていますので、ご期待いただけたらと思います。



藍の葉で染めるのは奥が深い。昔の人はスゴイです。

種から育てた藍の苗を花壇に定植すると、メキメキと藍葉が大きくなっていきます。今からたくさんの雨が降って太陽がキラキラと照りつくころに、青く発色する元気な葉っぱができあがります。

